

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

渚のBOYS



.Hermann
Dot-Hermann

荷物は
あまり
悩まな
かった

できるだけ
持ち物は
少なくして

足りなかつたら
あつちで買えば
いいんだし

うん

ラファエル
切符は
あるかしら？

着いたら
連絡するのよ

じゃあね
ママ

今年の夏休み
ぼくは海へ行く



二人だけの
夏だ



彼はナツヒコ

ぼくの学校の
同級生で
日本から来た
留学生だ

ちよつと見ない
うちに見事な
小麦色じゃないか！
日焼け止め
塗ってる？

え？
塗ってない
けど…

あう

えっ

ナツヒコ…

ちゃんと塗らなきゃ
ダメじゃないかーっ！
白磁の肌がシミに
なっても知らないよ！

ほら！腕だして！
ぼくのあるから
塗ってあげるよ

浜辺の近くに
ナツヒコの家が
持つてる別荘がある

一緒にどう？って
誘われたんだ

ラファって
女子みたいなこと
言うよねー

うつるさいな！

日焼けは
美の敵なのっ！

日焼け止めて
ベタベタして
いやー

なみをさっ

海
いつ行く？

夕方の方が
涼しいかな？

ナツヒコは
綺麗だ

んー…
いつがいい？
ぼくは
今でもいいよ

待ってよ
ラファ！

それより海
行くぞ！
よいドン！

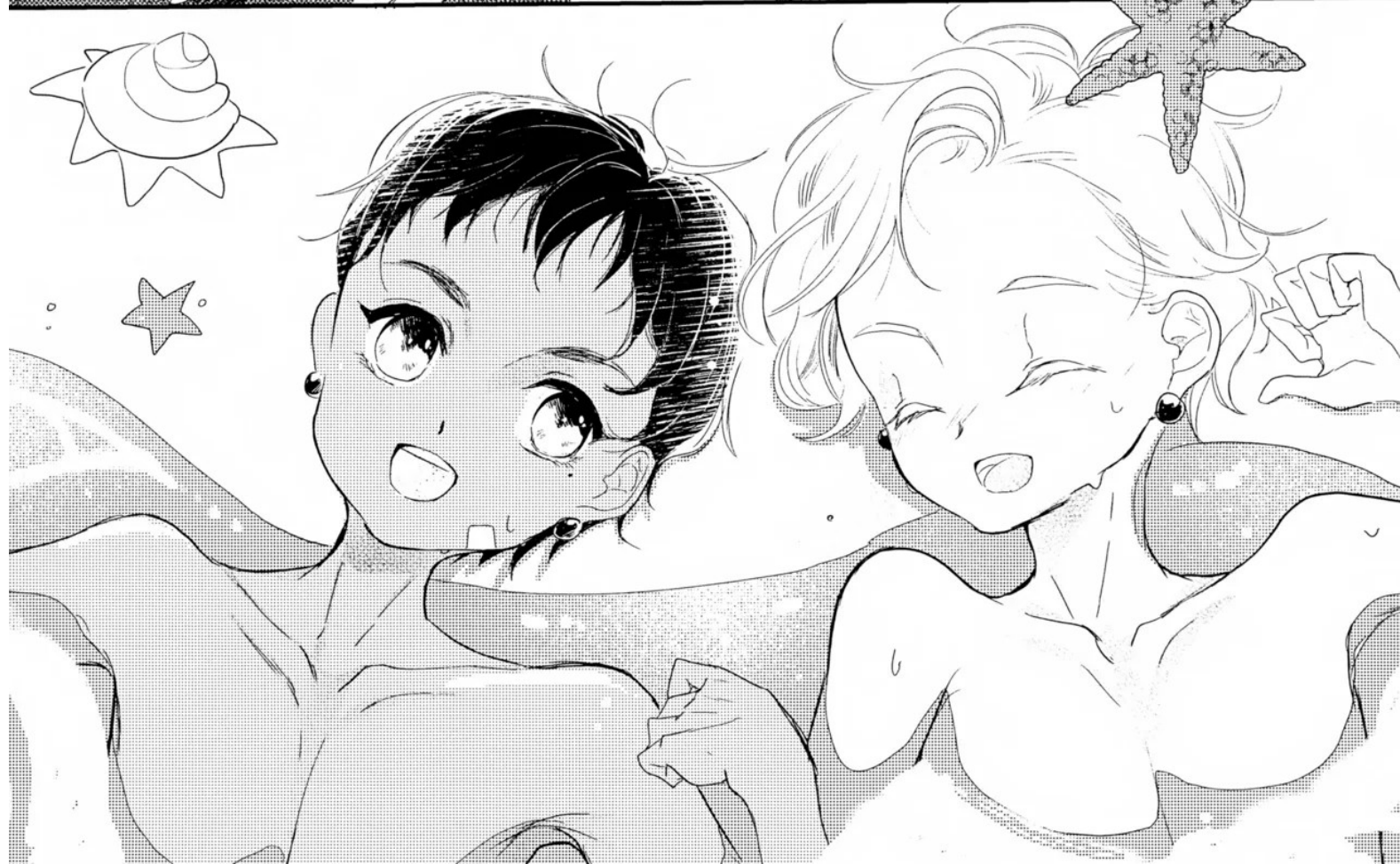
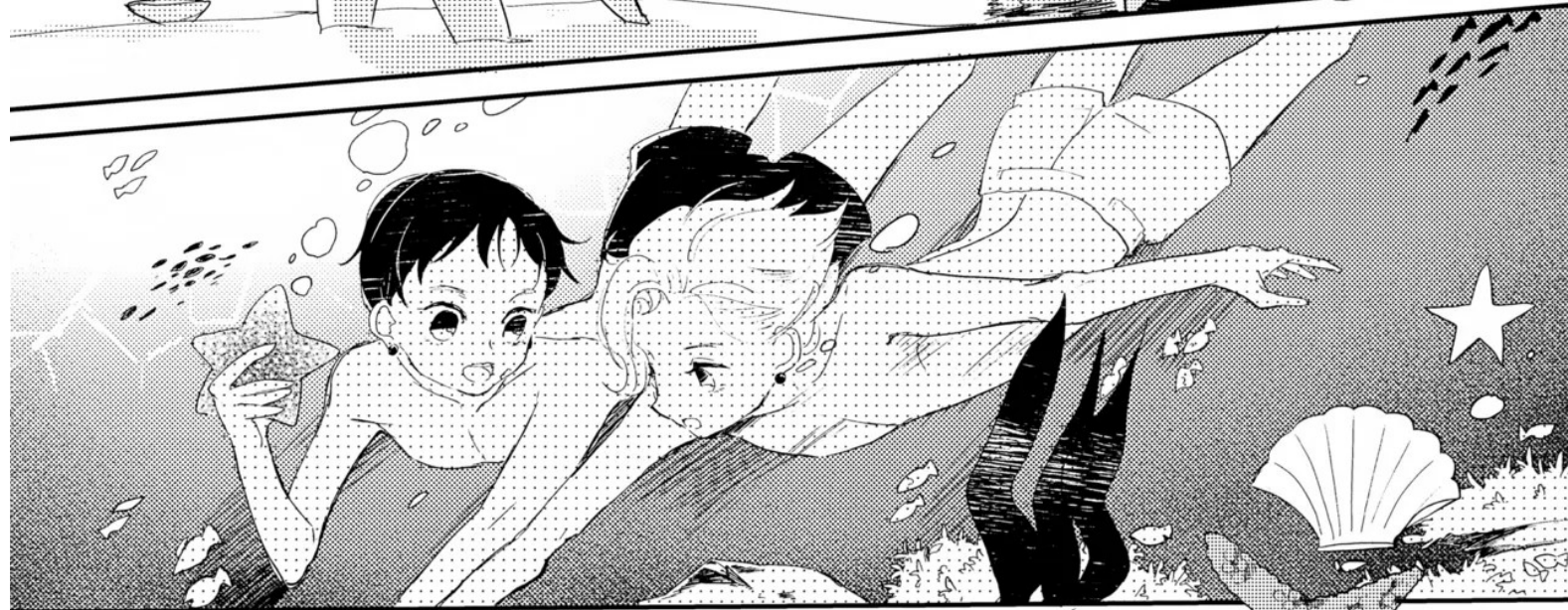
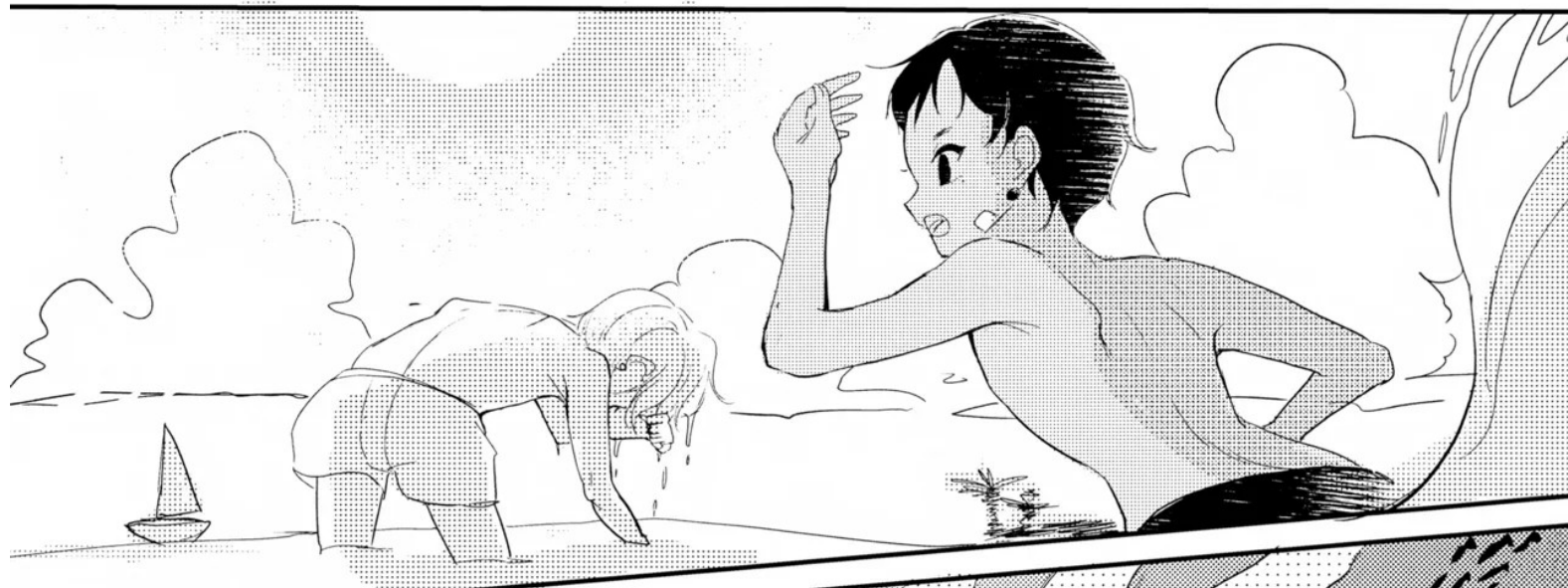
え！

ナンデモ
ナイヨ！

ん？
どーしたの？

本人は
気付いてない
けど…

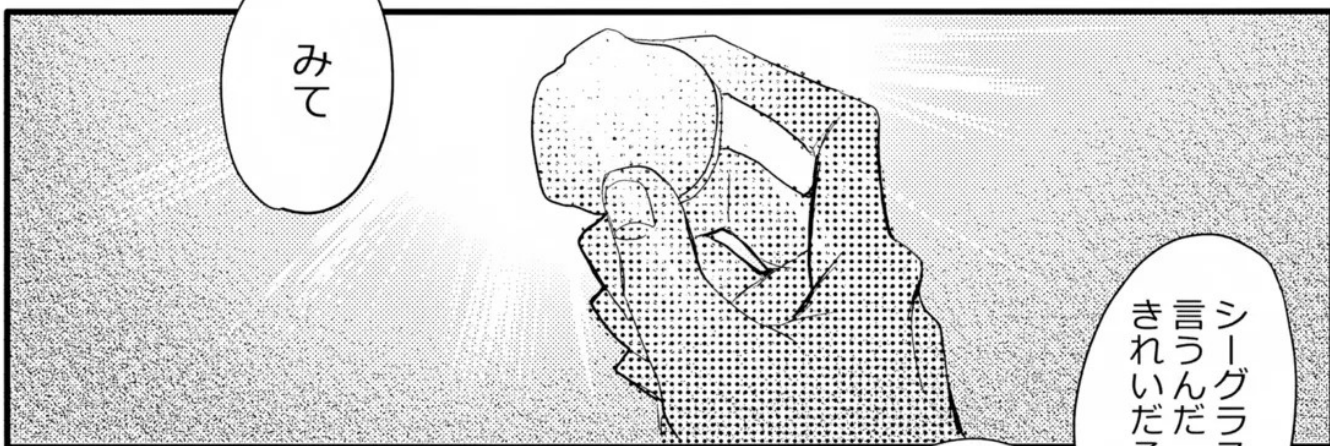
へんな
ラファ



ねえ
ラファ



みて



シーグラスって
言うんだ
きれいだろ？

瓶とか硝子の破片が
波に削られて
優しい色合いの石に
なるんだ。

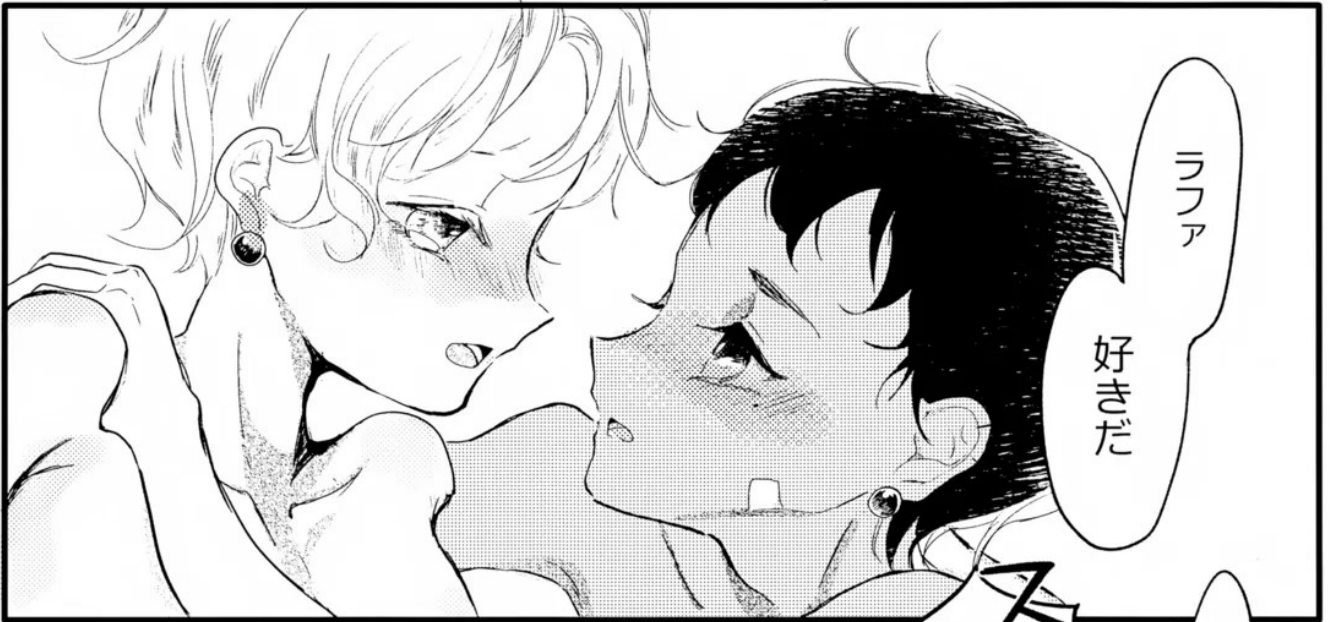
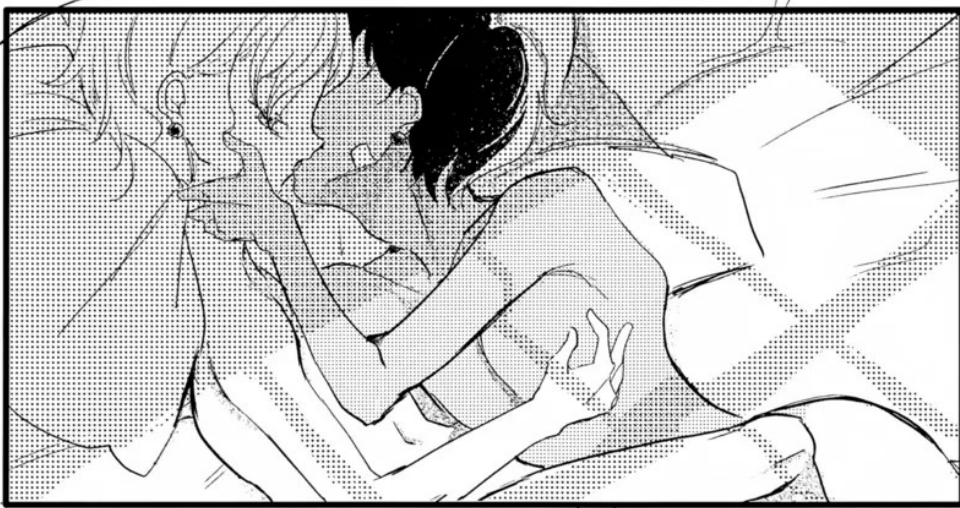


不思議だよな
元々は海に
捨てられたゴミ
なのにさ



海の宝石
みたいだろ





それに
ラファだって

まんざらでも
無いんだろ？

ガ
ニッ

大丈夫！

カー

初めてのラファを
ぼくが優しく
かつ情熱的に
エスコートするよ

ナツヒコ！
お前いつのまに
そんなこと
覚えた！

んんやっ

あー

このままずっと
夏だったら
いいのにな

どうしたの？

なんだか
寂しく
なっちゃって

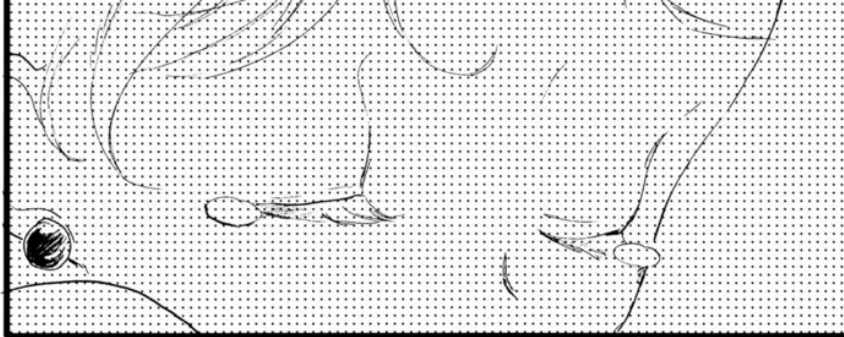
ナツヒコが

遠くに
行っちゃう
みたいでさ

ラファ？
ぼくはここに
いるよ？

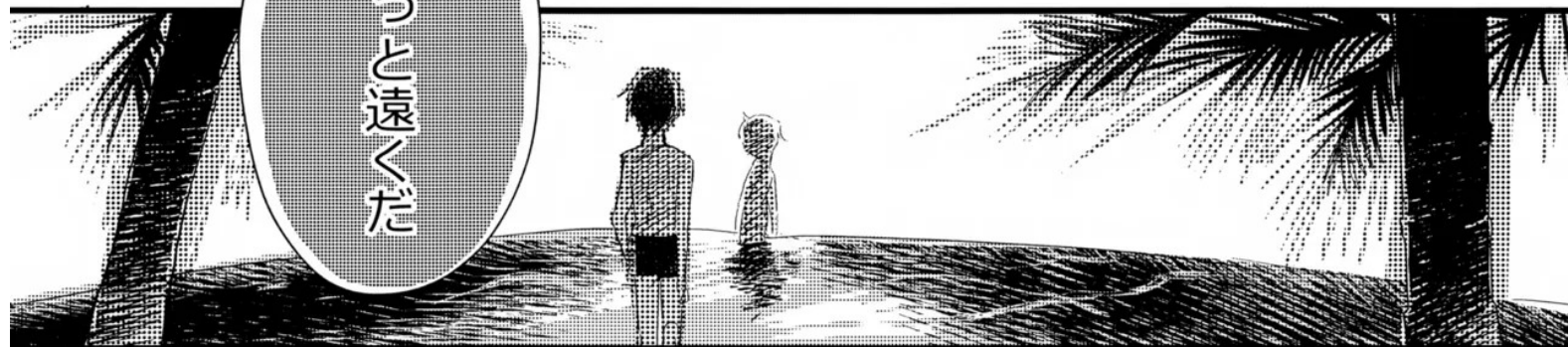
うん
ここにいます

けど――



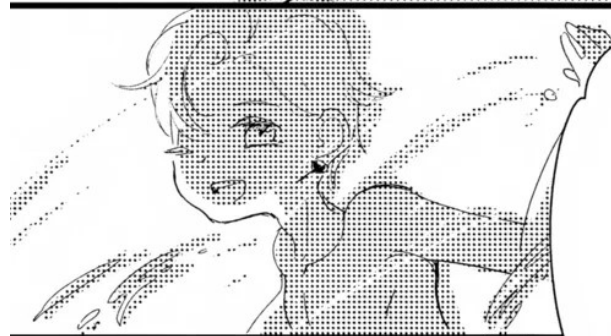
きみは

ずっと遠くだ



あはっ

いいじゃん



ラファ

海に
さらわれちゃうよ



さらわれようよ



かみさま

二人で――

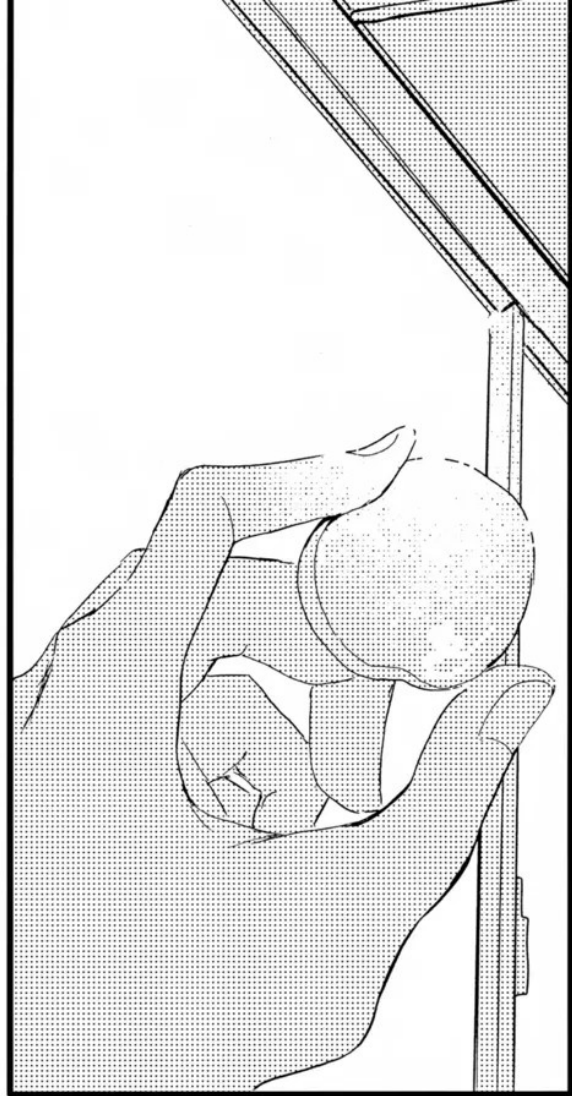
どうか
お願いします

どうか

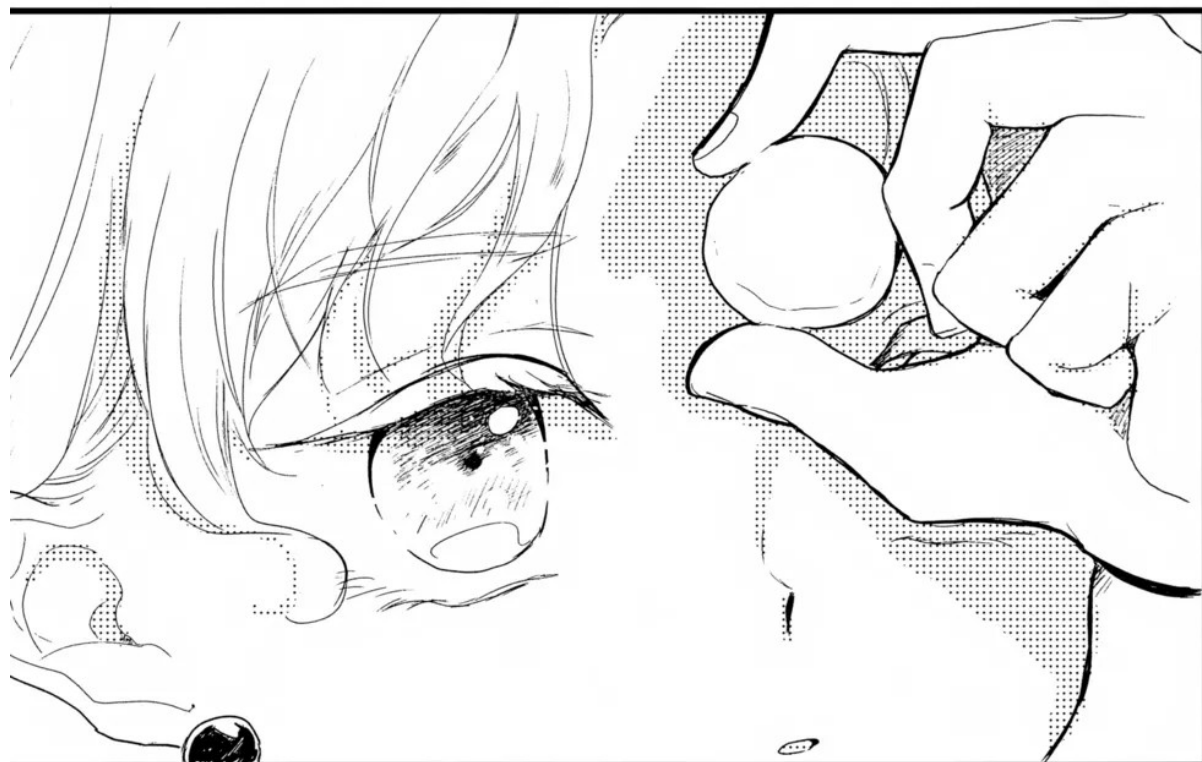
ぼくを
このまま

この海に

閉じ込めて
下さい



あの時間が
全部
思い出に
変わっていく





好きだ
ナツヒコ

だから
行かないでよ

夏休みが
終わったら

帰国すること
になったんだ

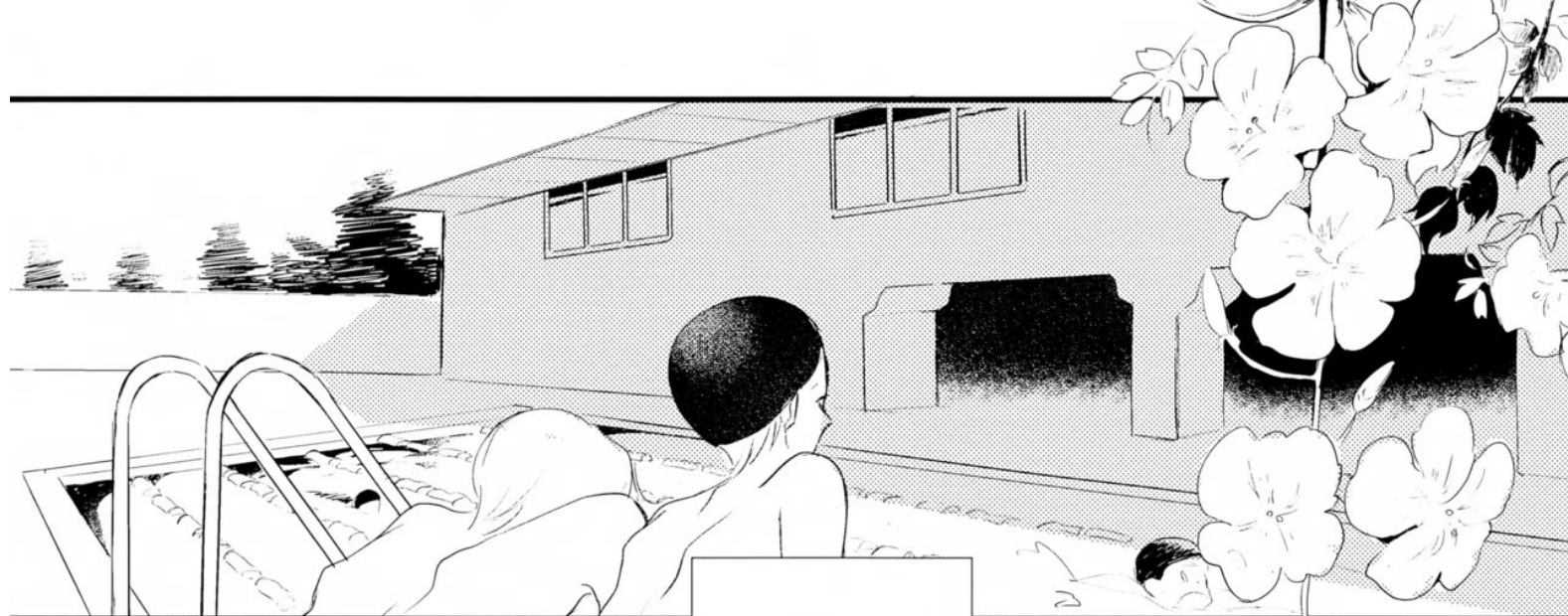
ぼくの
知らない場所へ



渚のBoys

次ページからの作品は
2年前に描いた夏コミティア合わせの同人誌ですが
締切りに間に合わず、発行出来なかった作品です
今回、表題作に合わせて掲載することにしました

『真夜中のPOOL』
2017.8.20



夏休み
みは
学校の
水泳
教室に
参加した



真夜中のPOOL

まよなかのプール



良い泳ぎだったぞ
ミカエル!



ぼくの教官は
ハンスの父さん
だった





ハンスの父さんは
他の大人たちより
ずっと若い

お兄さんって
感じた



なあミカエル



お前
真夜中のプールに
興味はないか？

真夜中？



こっそり練習して
皆を驚かせて
やろうぜ

真夜中ってのは
面白いんだ
いつもの学校が
全然違って見える

この前の
肝試しだって
すごい楽しかったし

面白そうだね

だからすぐに
OKしたんだ

友達を連れてって
いいか聞いたら

これ秘密だから
誰にも話しちゃ
だめだつて

ぼくは秘密は
守る質なんだ

おい
ミカー

友達には
真夜中のプールなんて
億尾にも出さずに

おっせーぞ
いつまで
待たせるんだよ

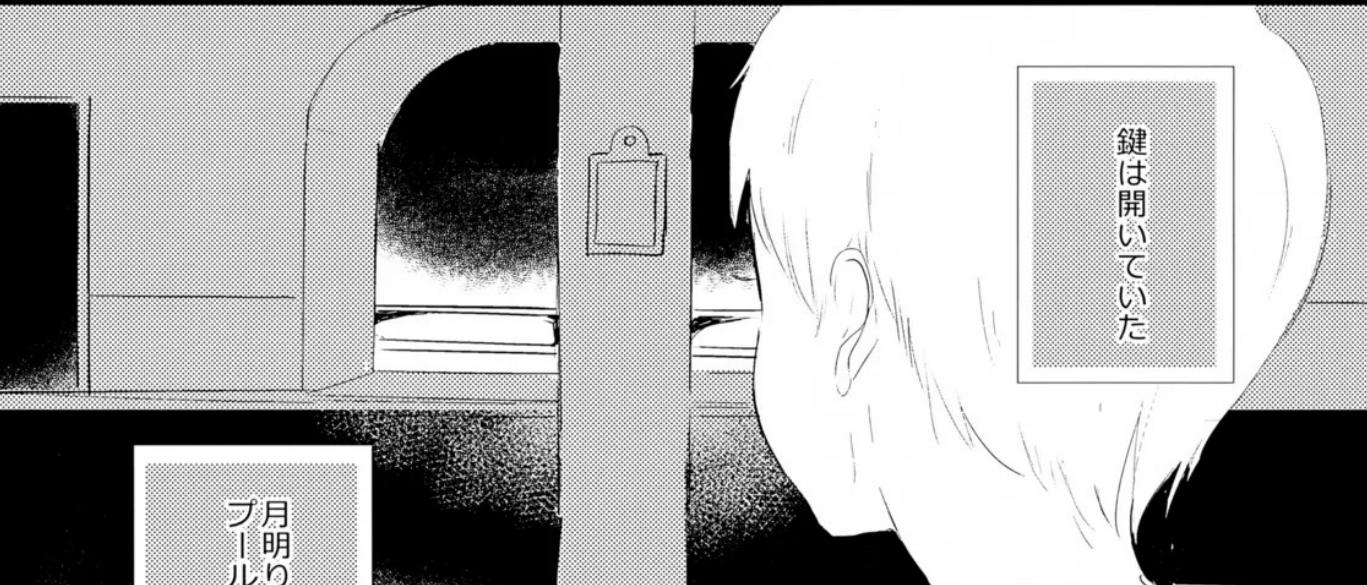
ごめんって

でさ今日
これから
どうするよ

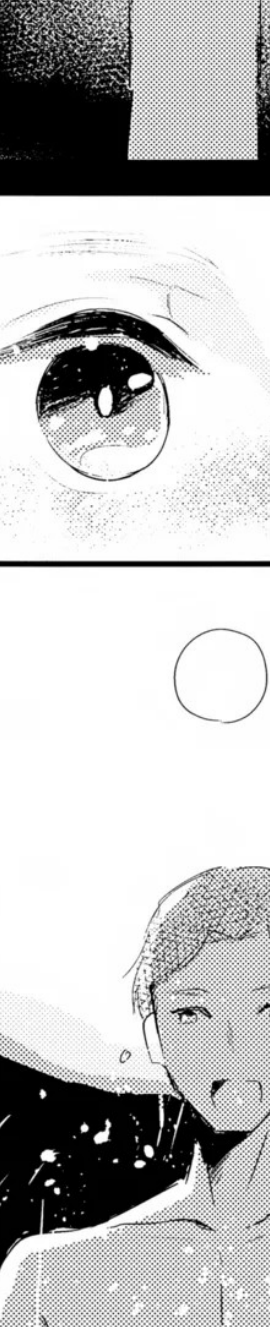
アルセストんち
行くか?

クーラーあるし
アイスもあるぜ

ぼくは一人で
真夜中のプールに
向かった



鍵は開いていた



月明りに照らされた
ブルーサイドには



待ってたぞ
ミカエル！



そこには
ハンスの父さんが
裸で泳いでいたんだ







酸素の共有？

は？意味
わかんないし

なに今の

わからなくて
結構



次の日
水泳教室は
いつも通りだった



月が見てるから



ぼくらには
口実が必要なんだ
水面下でのね

じゃないとほら



真夜中にぼくらが
泳いでるなんて



きっと誰も
知らないんだ

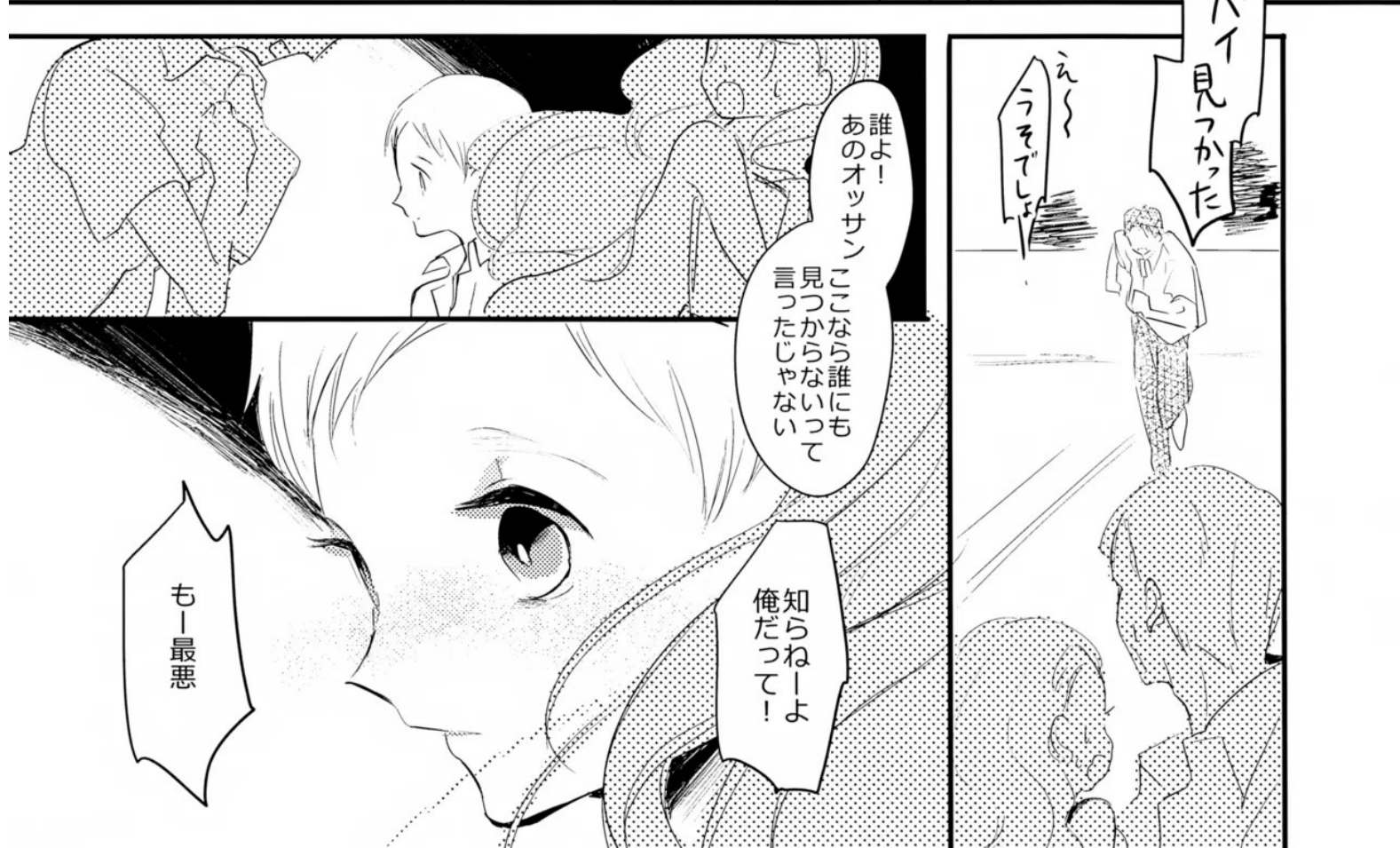


あの人を見ると
ふしぎと
変な罪悪感に
駆られる



その日の夕方
ぼくは忘れ物を取りに
プールへ戻ったんだ







この人の真意も

ここではないな
見えないな

真夜中のプールも



なんだか
いたのか

忘れ物した

ぼくの帽子
見なかった？

ぼくは全てを
理解した



なあ

また来るか？

明かせない気持ちも





あ...
...





その夜は
月も覗かない
暗い夜で

水底は
深海のように
冷たかった



海の底で

ぼくらは
体温だけを感じて

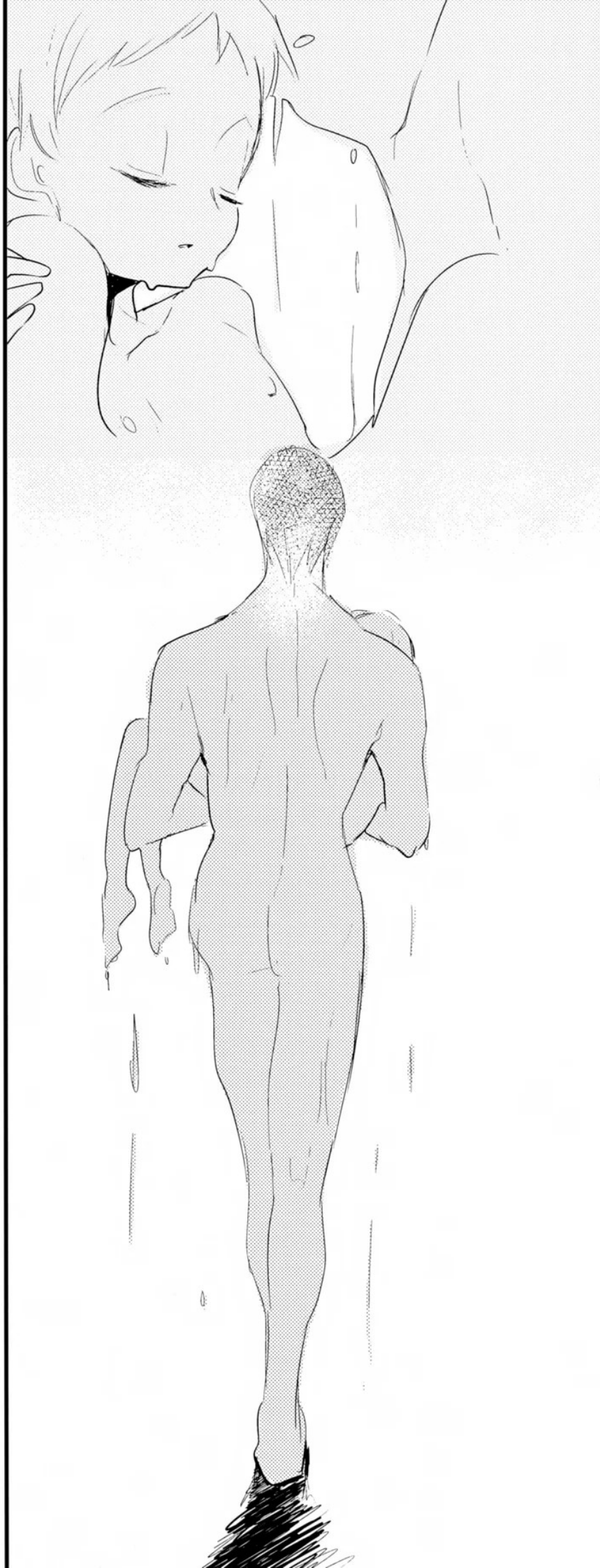
夜の闇に溶けた

それから
プールに
行っては
ない



行けばきっと
あの人がいた

昼も夜も
ぼくが望めば





ハンス
遠くの町へ
転校したんだよ

逢えたのに

それ以来 ぼくは
あの人を知らない
噂でハンスの父さんは
本当の父親ではないと
知らされた
それが真実か
どうかは知らない
彼らがどこへ行ったのかも
知らない

ただぼくとあの方は
彼方の夏
真夜中のプールを
泳いだ それだけだ

Fin

真夜中のPOOL

まよなかのプール
ORIGINAL BOYS BOOK
No.4



この作品はフィクションです。
作中の描写は表現内容の一つであり、
青少年への権利侵害を助長する意図はありません。
未成年者および少年愛にご理解の無い方が本書を閲覧しないよう
ご協力をお願いします。

『渚のBOYS』
発行日 2019/8/25
発行者 あさひ (@dot_hermann)
連絡先 4asahi20@gmail.com

.Hermann
Dot-Hermann

